

市の人口と予算 (1月1日現在)	
人口・世帯	合計 = 213,260人 (+ 98 / + 1,829)
	男 = 104,578人 (+ 21 / + 712)
	女 = 108,682人 (+ 77 / + 1,117)
	世帯 = 91,132世帯 (+ 70 / + 1,458)
※()内は前月比/前年同月比	
予算	一般会計 = 885億7,624万7千円
	特別・公営企業会計 = 462億1,368万9千円

自家用車よりタクシーの方が意外とお得!?

家計にやさしい選択、公共交通

ご存じですか? 日ごろの移動手段を自家用車からタクシーなどの公共交通に切り替えることで、年間の支出を大幅に削減できる可能性があります。生活スタイルを見直して、公共交通を利用しませんか。

問まちづくり推進課 ☎7150-6090



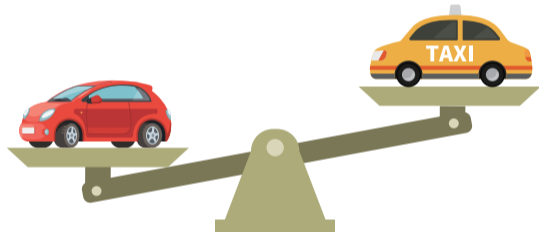
例えば週2日、市役所周辺から通院や買い物などで流山おおたかの森駅西口へ移動する場合の年間費用

自家用車(注)
62万3,981円/年

車両代	19万5,444円
自動車税・自動車重量税	5万4,000円
自動車保険料・自賠責保険料	9万6,795円
車検基本料	5万円
ガソリン代・消耗品代	5万9,342円
自宅の駐車場代	10万800円
出先の駐車料金	6万7,600円
合計(年額)	62万3,981円

タクシー
31万2,000円/年

自宅への迎車代	400円×週2日×52週(年間) =4万1,600円
運賃(約3.1キロメートル)	1,300円×2(1往復)×週2日×52週(年間) =27万400円
合計(年額)	31万2,000円



注:内閣府「高齢者の交通安全調査」をベースに作成

バスや鉄道ならもっとお得に!! もっと健康に!!

自動車を維持するためには、車両購入費のほか、ガソリン代や車検、保険料など、さまざまな費用がかかりますが、バスや鉄道は利用しただけの費用で済みます。また、駅やバス停まで歩いたり、乗り換え時に階段を上り下りしたりなど、自然と体を動かす機会が増え、健康増進にもつながります。

移動手段	運賃	乗車時間
バス(京成バス(流03系統)) 流山一丁目(流山市役所入口)～流山おおたかの森駅西口	210円×2(1往復)×週2日×52週(年間) =4万3,680円/年	約10分
鉄道(つくばエクスプレス) 流山セントラルパーク駅～流山おおたかの森駅	170円×2(1往復)×週2日×52週(年間) =3万5,360円/年	約2分

妊産婦さんや高齢者の移動を支援

市では、妊産婦さんや75歳以上の高齢者を対象に、公共交通の利用を支援する制度を設けています。詳細は市ホームページをご覧ください。

問まちづくり推進課 ☎7150-6090

妊産婦さんが利用したタクシー料金の一部を助成

妊産婦さんが健診や通院、出産に伴う入退院のために利用したタクシー料金の一部を助成(最大2万円)します。

ID 1040158

グリーンバスの高齢者割引

75歳以上の高齢者は、バス乗務員に割引証を提示することで運賃が半額になります。割引証をお持ちでない方は、市役所まちづくり推進課に交付申請してください。

ID 1020890

高齢者の免許返納で助成券1万800円

運転免許証を自主返納された75歳以上の高齢者を対象に、タクシーやバスで使える助成券(1万800円分)を1人1回まで交付します。

ID 1043452

今、乗って守ろう 流山の公共交通

公共交通は、通勤や通学、買い物などで、私たちに欠かせない移動手段です。

しかし「走っているのが当たり前」ではなくなってきた公共交通。例えばこれまで地方の問題とされてきた「路線バスの減便や廃止」が首都圏にも押し寄せてきています。これは、深刻な運転士不足や2024年問題による労働規制が背景にあります。実際、流山市でも昨年末に流山おおたかの森駅と江戸川台駅を結ぶ路線バスが廃止になってしまいました。

公共交通を残すためには、私たちが支え、守ることが重要です。鉄道やバス、タクシーの利用を心掛ける意識の転換が、公共交通を未来につなげる第一歩になります。

市内では、住民主体で交通問題に取り組み、新たな交通手段の導入を検討している地域もあります。市も交通事業者と協働し、皆さんが利用しやすい環境づくりに引き続き努めてまいります。



まちづくり推進課
交通計画推進室長
高梨 直樹



夫婦で学ぶファイナンス講座

いくら必要? どうやって貯める? 子育て資金・老後資金を考える

1級ファイナンシャル・プランニング技能士の田代修弘さんを講師に迎え、教育資金や老後資金など、必要資金のシュミレーションを行い、見える化します。どのように調達したら良いか、将来を見据えた我が家の家計プランを考えます。



📅 2月15日(土)10時～12時
 所 生涯学習センター(流山エルズ)
 定 市内在住の夫婦※1人での参加も可 定15組(先着順)
 費 無料
 申 市ホームページから電子申請または講座申込専用電話☎080-5494-2323へ※1歳～就学前児の一時保育あり(先着10人。1月31日までに要申し込み。保育カード送付のため、メールアドレスまたは住所が必要)
 問 企画政策課☎7150-6064
ID 1003422

森の図書館のイベント



①よみきかせ えいご絵本ライブ うたおう! あそぼう!
 洋書絵本で、英語によるおはなし会をします。おはなし会の合間に英語の手遊び歌も楽しめます。



📅 2月9日(日)11時～11時30分
 所 森英語ソムリエアカデミー・横溝美由紀さん
 定 小学生以下のお子さんとその保護者 定15組(先着順)

ID 1048192
 ②勉強しnight! 試験勉強は図書館で
 閉館後の図書館を試験勉強のラストスパートの場所として提供します。勉強に役立つ本や進路に関する本、息抜きになる本なども展示します。
 📅 2月9日(日)17時30分～20時45分 定 中学・高校生 定25人(先着順)
ID 1048193
【共通事項】
 所 森の図書館 費 無料 申 1月12日10時から電話
 問 森の図書館☎7152-3200

チャレンジゲーム in 流山 (流山市青少年相談員連絡協議会主催)

キンボールやスリッパシュート、しっぽ取りなど、みんなで力を合わせてさまざまなゲームに挑戦します。



キンボールの様子

📅 2月1日(土)9時30分～16時(9時から受け付け)※途中参加・退場不可
 所 生涯学習センター(流山エルズ)
 定 市内在住・在学の小学生 定80人程度(多数抽選)
 費 700円(昼食・保険代)
 持 動きやすい服装、室内靴、滑り止め付きの手袋、タオル、飲み物
 申 1月19日18時までに申込専用フォーム(=二次元コード)※兄弟姉妹でご応募いただいても、1人だけの当選となる場合があります。
 問 文化芸術・生涯学習課☎7150-6106
ID 1027772



クリーンセンターのリサイクル講座

①ペットボトルの椅子づくり
 📅 2月3日(月)13時～16時 定5人(多数抽選) 費300円
 持 古バスタオル、裁縫道具など



ID 1047786
 ②バレンタインキャンドルづくり
 📅 2月12日(水)10時～11時、11時～12時
 定各8人(多数抽選) 費各500円 持 持ち帰り用の袋



ID 1017407
【共通事項】
 所 クリーンセンター
 申 電子申請または往復はがき(1枚につき1講座)に開催日、時間、講座名、住所、氏名(フリガナ)、電話番号、返信用に宛名を明記の上、①1月20日②1月29日(いずれも必着)までに☎270-0174流山市下花輪191クリーンセンターへ郵送
 問 クリーンセンター☎7157-7411



ながスク よろず相談会 誰でも歓迎 何でも相談

市民活動推進センター登録団体の方や、これから活動を始めたいと考えている市内在住の方を対象に、市民活動での困り事だけでなく、「これから活動してみたい」「何かやってみたくけれど何から始めたらいいかわからない」といったどんなお悩みも一緒に解決します。

📅 1月20日(月)15時～16時 所 生涯学習センター(流山エルズ)
 定 5人(先着順) 費 無料 持 筆記用具
 申 申込専用フォーム(=二次元コード)または市民活動推進センターに電話、メール
 問 市民活動推進センター☎7150-4355
 問 na-shimin@machikatsu.co.jp



受験生応援コーナー 合格運が(運河)きつとくる

受験生応援パネルと、五角(合格)短冊にメッセージを書いて飾る受験生応援コーナーを設置します。また、利根運河ビリケンさんや天神社など、「うんがいい!!」場所も紹介します。

📅 1月11日(土)～2月28日(金) 所 運河駅ギャラリー(運河駅自由通路内)
 費 無料
 問 利根運河交流館☎7153-8555
 (月・火曜休館、祝日の場合は翌日)



市民のための栄養講座 バランスの良い食事と減塩

健康づくり推進員協議会南部・東部地区の皆さんと一緒に、「減塩グルメ」を作ります。食材選びや調理方法を学び、健康寿命の延伸を目指しましょう。

📅 1月31日(金)10時～14時
 所 東部公民館 定 市内在住の方 定15人(先着順) 費 400円
 持 エプロン、三角巾、マスク、筆記用具
 申 電話
 問 保健センター☎7154-0331

個性を笑いに 吃音を生かす芸人の歩み



お笑い芸人
インタレスティング たくし

TBS系バラエティー番組「水曜日のダウンタウン」などに出演し、メディアに注目されているお笑い芸人。自身の吃音を「弱み」ではなく「武器」として笑いを取る。新川小学校、北部中学校出身で、現在、南流山福祉会館主催のお笑いライブに毎月出演している。

第2回 吃音の認知と芸人への扉を開く

こんにちは! 今回は、僕が吃音に気づき、お笑い芸人を志すことになったきっかけをお話しします。

20歳の頃、平日はアルバイトをし、週末はストリートミュージシャンとして過ごしていました。路上ライブでは、尾崎豊さんなどの曲をコピーしたり、自分で作曲した歌を歌ったりしていました。また、作曲した歌をデモテープに入れてレコード会社へ送るなど、プロのミュージシャンを目指し、日々音楽へ情熱を注いでいました。

しかし、親からは「そろそろ定職に就きなさい」と言われ、24歳の時にデパートの清掃員として働き始めました。

働き出して間もないある日、おもちゃ売り場で清掃していると、予期せぬ出来事が起きました。今までに見たことがないほどの汚物が散乱しており、お客さんが周囲にいる中で僕は処理に戸惑い、職場のチーフに応援を要請するため、携帯電話で連絡を取ろうとしました。しかし、緊張と吃音が相まって、終始ぎこちない言葉で状況を説明してしまい、かえって現場を混乱させてしまいました。

状況をうまく説明できず、現場を混乱させてしまい、処理後にチーフから呼ばれた時は叱られることを覚悟しました。しかし、チーフは笑いながら、「君、吃音だよ。でもその話し方はとても面白いから清掃員よりお笑い芸人の方が向いているんじゃないか?」と言われました。その言葉で僕は自分自身が吃音であることを知り、そして吃音が武器になることも同時に学び、お笑い芸人を志すことにしました。

学生時代、周りから「スムーズに話して」と言われ、人とのコミュニケーションに苦しんでいた日々。でも今は違います。チーフとの出会いをきっかけに、吃音は僕の大変な「個性」だと気付くことができました。

人それぞれが持つ「違い」は、決して短所ではありません。むしろ、その人らしさを形作る大切な個性なのです。今、人との違いに悩んでいる方へ。あなたの違いは、きっと誰かの心に届き、笑顔や勇気を生む力になります。その違いを恥じる必要なんて、どこにもないのです。

今回は、芸能事務所に所属し、プロとして活動していた時のエピソードを紹介します。お楽しみに!